

平成 28 年度

公立高等学校入学者選抜学力検査
成績調査結果報告書

山梨県教育委員会

目 次

I 調査の概要	-----	1
II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要	-----	1
III 教科別調査結果の概要		
国 語	-----	2
社 会	-----	5
数 学	-----	7
理 科	-----	8
英 語	-----	10
* 得点の度数分布グラフ	-----	13
* 平均点推移グラフ	-----	19
* 正答率調査表	-----	21

I 調査の概要

1 調査の目的

平成28年度山梨県公立高等学校入学者選抜のために実施した学力検査の成績結果の調査・分析を通して、本県公立高等学校志願者の学力の実態を把握し、本県中学校及び高等学校の教科教育を充実させるための資料とすることを目的とする。

なお、この調査は抽出調査による客観的資料であり、各教科の出題のねらいに照らしたものである。

2 実施日、調査教科

平成28年3月3日（木）

国語（55分）	9：30～10：25
社会（45分）	10：40～11：25
数学（45分）	11：40～12：25
英語（45分、うち「リスニング」約12分）	13：30～14：15
理科（45分）	14：30～15：15

3 調査対象者

全日制公立高等学校入学者選抜検査の全教科（5教科）を受検した者全員4,552人（男子2,354人／女子2,198人）を対象としている。

なお、正答率調査表については、上記受検者の中からの抽出者を対象としている。抽出人数は、458人で、全体に占める抽出者の割合はおよそ10%である。なお、対象者の抽出に当たってはすべての高等学校での受検者を対象に、その受検高等学校の受検者数に応じて、男女に関係なく、無作為に抽出した。

II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に即して、基礎的・基本的な事項を重視するとともに、それらを活用する力を検査することができるように出題すること。
- ② 当該教科の各分野、領域及び事項にわたって偏りのないように出題すること。
- ③ 単に記憶の検査に偏らないように配慮し、思考力、判断力、表現力を検査することができるように工夫すること。
- ④ 全県的な視野にたって出題し、地域差による影響が生じないようにすること。
- ⑤ 特定の教科書等の使用者が有利になることのないようにすること。

2 得点別に見た度数分布

総合得点の平均点は250.5点で、前年度より15.5点低かった。最高点は473点、最低点は38点であり、その得点分布は（図1-1 P13）に示すとおりである。

平均点を男女別に比較すると、男子は249.0点（前年度比-16.6点）、女子は252.0点（前年度比-14.5点）で、女子が男子より3.0点高い。その得点分布は（図1-2 P13）に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成24年度から今年度入試まで5年間の全体平均は（図1-3 P19）のように推移している。

Ⅲ 教科別調査結果の概要

○ 国 語

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 学習指導要領の趣旨に基づき、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域、及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の内容を広く網羅した出題とし、総則に記されている「関心・意欲・態度」、「知識・理解」、「思考力・判断力・表現力」の三要素が身につけているかということ測れる問題構成となるよう配慮した。
- ② 「話すこと・聞くこと」に関しては、日常生活の中の話題について話したり聞いたりするときに、相手の立場を想定して分かりやすく話すための構成や語句の選択、自分の考えを整理しながら聞き取ることについて出題した。取り上げたのは、クラスメイトにお薦めの本を紹介する活動に向けて、まずグループ内でリハーサルをし、スピーチを聞いたグループ内の他のメンバーが、発表者に対して助言をする場面である。全体と部分の関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら分かりやすい展開や語句の選択をするように、具体的な助言内容を示しながら設問を構成した。
- ③ 古典については、百人一首にも採られている安陪仲麿の歌の成立に関する説話を、現代語訳と併せて提示しながら、我が国の伝統的な言語文化が創造と継承を繰り返しながら形成されてきたことを理解し、それらに親しみ、我が国の言語文化を継承し、新たな創造へとつないでいくことができるような出題を心がけた。
- ④ 文学的な文章については、短歌を詠むことを通して、言葉に誠実に向き合いながら思いを伝え合うことの貴さに気づいた主人公が、青春時代にぶつかる困難を乗り越えながら、明日に向かって歩いていこうとする文章を取り上げた。受検生と同世代の主人公を語り手とした平易な表現の文章により、理解しやすい内容となっている。人間関係の難しさについて考えを巡らせている中学生にとって、互いを理解し合う上で大切な言葉のもつ力について考えることのできる文章である。伝統的な言語文化の一つである短歌も含め、表現されている内容について、その表現の工夫とともに理解することをはじめとし、今まで学習してきた文学的な文章を読み取る力について問うた。
- ⑤ 説明的な文章については、38億年の生物の歴史から人間が学び、人間も生きものの一つであるという謙虚な視点で、人間が生み出す科学技術をいかに社会へ生かしていくことができるかということを考える生命論的世界観の必要性について論じた文章を取り上げた。小学校・中学校の教科書にも採録されている科学者の文章であり、取り上げられている具体例も含め、理解しやすい内容となっている。21世紀を担っていく若者が、科学技術と人間の社会生活の営みとをどのようにバランスをとっていくのかを考えるうえで、参考となるものである。文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠をもって読み進めることで、内容を正確に読み取り理解できるかどうかについて問うた。また、中学校国語科の目標に、「思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし」とあり、この点についても配慮した。併せて、文章の読み取りを前提として、適切な材料を選び、構成を工夫しながら表現する力を問う出題内容とした。
- ⑥ 配点については、一領域の比重が大きくなりすぎることがないように配慮した。

2 得点別に見た度数分布

全体の平均点は58.0点で、昨年に比べて0.3点高い。最高点は96点、最低点は6点で、その得点分布は(図2-1 P14)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は56.2点、女子は60.0点であり、女子が男子より3.8点高い。その得点分布は(図2-2 P14)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成24年度からの5年間の全体平均点は、(図2-3 P19)のような推移である。平成28年度は、5年間で2番目に低い平均点となっている。

男女の平均点の差は3～4点前後で推移している。

4 大問別の内容と調査結果の分析（正答率調査表 P21）

㊦ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（漢字の読み書き・漢文の訓読に関する知識）

一、二では、学校生活や身近な社会生活に関わる短文を設定し、基本的な常用漢字の読みと書き取りを出題した。新常用漢字については、文部科学省通知による出題に際しての配慮事項等を受けて、音読みと訓読みとを1字ずつ出題した。日常生活の場面で使われる漢字についてはよくできているが、書き取りを中心に、問題によっては正答率に大きな差が見られ、体験的に語彙を獲得するとともに、実際に手書きをする習慣の必要性が感じられる。読書体験をはじめとして活字文化に触れたり、豊かな人間関係に支えられた様々な体験を通じて使える語彙を増やしたりしながら、繰り返し学習したい。

三は、漢文の訓読の仕方を知り、漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れることができるかを問う問題を、漢詩の一節を取り上げ、書き下し文を書く形で設定した。昨年度、9年ぶりに漢文の出題をしたところ、基本的な学習内容の定着に課題が見られたこともあり、継続しての出題とした。正答率は69.9%であり、高校進学後の古典学習に向けて、一定の理解がなされていることがうかがえた。

㊦ 話すこと・聞くこと

一は、聞き手を引きつける話の構成の工夫について、全体と部分の関係に注意して考える問題とした。具体的には、小泉さんの発表の良い点について助言する場面を設定した。聞き手に話題を投げかけるとともに、紹介したい本の内容と、話し手の身近な体験とを関連づけて発表の導入としたことで、聞き手に分かりやすい構成になっている。正答率は86.2%であった。

二は、聞き手に分かりやすい話の選択について考える問題とした。文の成分の呼応により意味が曖昧になってしまう表現を、伝えたい内容に合わせて適切に置き換えることができるかを問うた。正答率は53.7%であり、日常の言語活動を振り返り、言語感覚を磨くことの必要性が感じられる。

三は、話の論理的な構成や展開に注意することができるかについて、聞き手が注意して聞き、自分の考えを助言として述べるという形で問うた。話し手には理解されていることでも、聞き手にとっては初めての情報であることも想定し、必要な情報を補いながら適切に伝えることについて考える必要がある。正答率は38.6%であり、条件に従って考えをまとめて表現することに課題が見られた。

㊦ 古典（古文） 出典 『今昔物語集』（小学館 新編日本古典文学全集）

一は、歴史的仮名遣いの読み方に関する問題である。正答率は88.4%であり、語頭以外のハ行がワ行となるという原則については、理解されている。

二は、与えられている現代語訳を活用しながら、場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができるかについて、指示語の指示内容を問う形で設定した。正答率は71.0%であった

三は、時間の経過による言葉の変化を理解することができるかを問うた。言葉は、時間の経過により語形や語意などが変化していくという側面をもっている。言葉のもつこのような性質に気づくことで、自分たちが使っている言葉に対する興味・関心を喚起するとともに、理解や認識を深めるようにすることが大切である。正答率は60%を切っており、我が国の歴史の中で創造され、継承され、実際の生活で使用されることで形成されてきた文化的な言語生活について実感させる指導の必要性が感じられる。

四は、登場人物の言動の意味を考え、内容の理解を深めるとともに、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いを想像することができるかを、和歌に込められた思いを述べる形で問うた。正答率は46.9%であった。現代語訳等で示されている情報を活用して中心的な部分を把握し、必要に応じて要約するといった記述型への対応に課題が見られた。

㊦ 文学的文章 出典 『うたうとは小さいのちひろいあげ』 村上しいこ（講談社）

一は、現在進行している内容の中に、主人公が回想している部分が挟み込まれていることを確認

する問題である。回想部分が文章全体の中で果たす役割について考えることは、登場人物の言動と話の展開や作品全体に表れたものの見方とのかかわりを考えることにつながり、文章の理解を深めることになる。正答率は32.1%であり、文章の書かれ方に注意して読むこと、書き手の意図と表現の仕方のかかわりを考えることに課題が見られた。

二は、文脈に即した語句の意味について考える問題である。同内容を言い換えた表現に注目することで、文脈の中における具体的な意味をとらえることにつながることに気づくことが必要である。正答率は62.4%であった。

三(1)は語句の効果的な使い方など、表現の工夫について考える問題である。文章中に使われる語句が作者の立場や意図、感情などを反映していることを理解し、表現上の工夫に注意して読むことが大切である。正答率は27.3%であり、工夫された表現を丁寧に追うことと、表現に反映されているものを理解することに課題が見られた。

三(2)は場面や登場人物の設定の仕方をとらえて、内容の理解に役立てることができるかを問うた。話の展開や内容との関わりの中で、短歌で表現された思いを読み取ることで、作品全体への理解を深めたい。正答率が19.0%、無答率が19.9%であり、読み取ったことをもとに、条件に基づいて適切に記述する力については、ここ数年来の課題である。

四は文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができるかを問うた。正答率は48.7%であった。文章を主観的に味わうだけでなく、客観的・分析的に読み深めることが必要であり、そのためにも、描写の意味や効果を評価しながら読む、複数の作品を読み比べるといった活動が求められる。

五 説明的文章 出典 『中学生からの大学講義3 科学は未来をひらく』「私のなかにある38億年の歴史—生命論的世界観で考える—」中村桂子(ちくまプリマー新書)

一は、文の内容を読み取り、適切な語を空欄に補充する問題である。空欄の直前直後丁寧に読んだ上で、文章全体と部分との関係を確認することができるかを問うた。正答率は71.2%であった。

二は、文章から適切な情報を得て指示語の内容を捉え、内容を要約する力を問う問題である。指示語の内容を、その直前をたどりながら理解し、その上で限られた字数の中にどの要素を残すべきかを判断し、再構成する力を問うた。正答率は60.5%であった。

三は、文章の構成や展開、表現に留意して、内容を読み取る力を問う問題である。正答率は63.8%であり、文章の形式や内容について自分の考えをまとめる力が必要である。そのためにも、様々な文章の違いに気づき、文章の書かれ方を評価する力の育成につながる読書活動等の充実が求められる。

四は、文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分けることで内容を的確にとらえることができるかについて確認する問題である。説明的な文章は、論の展開の中心となる部分とそれを支える例示や引用などの付加的な部分が組み合わされて構成されている。この特徴を踏まえて、大きな意味のまとまりごとに、文章全体における役割をおさえることが必要である。(1)の正答率は74.0%、(2)の正答率は34.5%であり、文章の構造を理解し、対比的に扱われている情報を整理し、筆者の思考の流れを理解することについて課題が見られた。

五は、本文の論理展開を読み取る力を問う問題である。文章の論述の過程には、書き手のものの見方や考えの進め方が表れている。書き手の論理展開についての意図をとらえることで、文章の内容を的確に理解することができる。正答率は76.6%であった。

六は、「書くこと」領域の問題である。本文を読んで、「科学技術を活用してどのような社会をつくっていききたいと考えるか」についての考えをまとめ、具体的な科学技術を例に取り上げながら記述することができるかを問うた。めざましい進歩を遂げる科学技術をどう活用し、それとどう付き合っていくかを考えることは、とりもなおさず我々人間がどう生きるかを考えることでもある。21世紀を担う若者にとって、科学技術が人間社会に与える影響について考えることは大切な課題であり、その課題に取り組む時の一つの考え方として、人間も生き物の一つであるという立場に立つことは意義深いと思われる。配点15点のうち、0~5点の分布の計が11.9%、6~10点が71.3%、11~15点が16.8%であった。

5 全体を通しての考察

国語全体としては、無答数も少ないことから、国語への興味・関心の高さがうかがえた。

古典については、伝統的な言語文化への興味・関心を高め、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、自分の考えを形成していくためにも、現代の生活にも密接に関連している身近な話題を取り上げることで、伝統や文化が生きたものとして脈々と受け継がれていることの価値について考えさせていきたい。語彙は豊かになるにつれて、語句と語句との意味の違いが微妙なところまでつかめるようになり、語感が磨かれると、一つ一つの語句について、他の語句に置き換えられたり置き換えられなかったりすることに気づくようになる。そのことを、書くときや話すときに役立てられるようにしていくためにも、読書経験をはじめとして、様々な体験を通じて、実際に使える語彙を増やしていく必要がある。

また、ここ数年の傾向として、文章の展開や表現に留意して内容を読み取ること、全体と部分との関係を確認しながら、根拠をもって判断すること、文脈を踏まえながら、表現に込められた筆者の意図を読み取ることによって課題が見られる。条件に基づき、自分の考えをまとめて表現する記述式の出題形式は依然として正答率が低くなる傾向にある。文章全体を丁寧に読み、根拠を明確にしながら自分の考えを深めてまとめる力や、文章全体の構成を把握して内容理解につなげる力をつけるためにも、文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけて自分の考えをもち、それを述べたり、文章を読み比べながら評価したりするといった言語活動を通して、思考力、判断力、表現力の育成を図るとともに、日常の言語活動を振り返りながら言語感覚を磨いていくことが望まれる。

〇 社 会

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の三分野にわたって、基礎的・基本的な学力が検査できるように配慮した。
- ② 写真、図、表、グラフなどの資料を通して、思考したり、判断したり、表現したりする力を問い、また、多面的・多角的な資料活用能力を問うようにした。
- ③ 中学校学習指導要領の趣旨に沿った出題に心がけるとともに、身近な地域である山梨に関する題材をできるだけ取り入れるように配慮した。

2 得点別に見た度数分布

平均点は46.5点で、前年度(57.8点)より11.3点低かった。最高点は96点、最低点は0点であった。得点分布は(図3-1 P15)に示すとおりである。

男女別の平均点を比較すると、男子は47.2点、女子は45.7点で、男子が1.5点高かった。その得点分布は(図3-2 P15)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成24年度から今年度までの5年間の社会科の平均点は(図3-3 P19)のように推移している。今年度は過去5年間で一番低い平均点となった。問題の難易度は例年並みだが、基礎的・基本的な学力が検査できるように配慮する一方、自分の言葉で表現する問題や、複数の図やグラフなどの資料を関連づけて読み解く技能を検査する問題を増やしたことが得点低下につながった。また、男女別比較で見ると、男子が女子を上回る傾向が続いている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P21)

1 地理的分野

1の世界の地理に関する問題では、第二次大戦後に夏季オリンピックを開催したことがない州を世界の六つの州の中から答える問題で正答率が高かった。一方、時事的な問題に関心を持ち西アジアの地図を見てアフガニスタンの位置を特定する問題では正答率が27.9%であった。また、

(3)の南米の開発と環境問題に関する理解を基に複数の資料から考えられることを記述する問題は正答率が46.9%であった。地理学習の基本となる世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連づけて世界の人々の生活や環境の多様性を理解すること

に課題が見られた。

2の日本の地理に関する問題では、(2)の工業の地域的特色に関する理解を基に、グラフを読み取り、工業製品を特定する問題で正答率が高かった。(4)の等高線を読み取り、断面図をかく問題では正答率が5.9%であった。

地図の読図や作図は地理的事象の理解だけでなく、地理的な見方や考え方を育む上で必要不可欠な能力である。このような地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図など地理的技能に課題が見られた。

2 歴史的分野

1の古代から近世までの問題では、(1)の問題文から古墳時代に東日本へ勢力を広げた大和政権を答える問題においては正答率が88.6%と高かった。一方(2)の中世に関する問題では、御成敗式目以降の鎌倉時代末期に発出されたのは選択肢の中では徳政令だけであることを特定する問題の正答率は34.3%であった。

また2の近代以降の問題では、(4)の大正時代の社会の動きを選択肢の中から特定する問題や(5)の戦後の核廃絶に向けたできごとを時系列に並べる問題の正答率が低かった。近代以降の複雑な国際情勢の中で我が国が近代国家を形成していったことについての理解に課題が見られた。単純な用語の記憶だけではなく、歴史事象を原因や背景、影響と関連づけて理解して自分の言葉でまとめて表現することに課題が見られた。

3 公民的分野

全体的には入試直前の学習内容であるだけに、例年どおり地理的分野や歴史的分野に比べ正答率は高かった。3の地方議会の働きについて条例制定権を選択肢から特定する問題や、4の好況期における経済政策についての基本的事項を選択する問題については、いずれも正答率が高かった。しかし、5(2)の人口の推移と高齢者給付費の二つのグラフを関連づけて、社会保障の課題を記述する問題の正答率は22.7%であり、決められた語句を使って自分の言葉で表現する問題で課題が見られた。

4 三分野総合

今年度の三分野総合問題は、昨年4月に開館した山梨近代人物館への訪問をきっかけに山梨ゆかりの人物をテーマにして、地理、歴史、公民の各分野から広く出題をした。郷土山梨の特色ある地形の写真を見て扇状地を答える問題の正答率は高かった。1(2)の内閣について、構成と権限・職務について正しく語句を記入すると共に内閣の職務を選択肢から特定する問題は正答率が30.1%であった。

5 全体を通しての考察

中学校の社会科は広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多角的・多面的に考察し、我が国の国土と歴史に関する理解と愛情を深め、公民としての基礎的な教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的な資質の基礎を養うことが求められている。いずれの分野においても、習得した知識を活用して、社会的事象について考えたことを説明したり自分の意見をまとめたりすることにより、思考力、判断力、表現力等を身に付けることが求められている。そのためには、まず基礎的・基本的な知識の理解をより深く確実にすることである。一つの事象をただ単に用語として覚えるのではなく、事象の原因や背景、影響などを、時間的・空間的な広がりを意識しながら勉強したり、具体的な社会的事象と関連づけながら理解するように学習したりすることが大切である。また、日頃から社会的事象に関心を向け、授業での重要な項目だけを無理に暗記しようとする学習ではなく、社会的事象と自分との関連の中で疑問点を持ってじっくり学習し、課題を発見して自分の言葉で説明できるところまで学習を進める姿勢が求められている。

社会科では社会的事象に関する興味や関心を持ち、個々の事象について広がりを持った確かな知識を身につけ、よりよい社会を築いていくために様々な問題に主体的に関わっていこうとする資質を養うことが求められる。

○ 数 学

1 出題のねらい、配慮事項

数と式、図形、関数、資料の活用の各領域にわたって、基礎的な概念・原理・法則の理解や、数学的に表現し処理する能力の把握に重点を置きながら、事象を数理的に考察する能力や数学を活用する態度が検査できるよう、次の点に配慮して出題した。

- ① 身近な課題に対して、主体的に解決する力が検査できるようにした。
- ② 知識や技能を活用して、問題を解決する力が検査できるようにした。
- ③ 複数の領域にわたって、総合的に考える力が検査できるようにした。
- ④ 思考過程や根拠などを論理的に説明できる力が検査できるようにした。

2 得点別に見た人数分布

平均点は55.8点で、昨年より8.5点高い。最高点は95点、最低点は0点で、その得点分布は(図4-1 P16)に示すとおりである。

男女別の平均点を比較すると、男子56.3点、女子55.3点で男子が1.0点高い。ここ数年男子が女子より2点前後高い状況が続いているが、今年は、男子の方が女子より高い状況は続いているものの差は縮まっている結果となった。その得点分布は(図4-2 P16)に示すとおりであり、31~70点では女子の構成比が、71点以上では男子の構成比が、それぞれ高くなっている状況である。

3 平均点の推移

平成24年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図4-3 P20)のように推移している。ここ数年、数学的な見方や考え方を問う問題や思考過程を記述する問題、理由を記述する問題を取り入れてきた結果、全体の平均点は50点前後を推移してきている。今年は、平均点が55点を上回ったが、説明や証明などの記述の問題を増やし、大問の4までに標準的な問題を設定したことが影響した部分もあるものと考えられる。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P22)

① 「数と式の四則」

基礎的・基本的な数式の処理をねらいに出題した。全体的に高い正答率であり、文字式の計算などの基本的な計算処理は十分定着していると考えられるが、分数の約分や文字式の割り算を含んだ計算の問題では、正答率が90%を下回り、更には平方根を含んだ計算の順序を問う基本的な計算では、正答率が80%を下回り、課題の残る結果となった。

② 「基礎的事項」

基礎的な知識に基づく表現や処理をねらいに、2次方程式、確率、比例のグラフ上の点、二等辺三角形の頂角、作図に関する問題を出題した。2次方程式の解法、二等辺三角形の頂角、最短距離となる作図については、まずまずの結果となった。その一方で、さいころを題材とした基本的な確率や比例のグラフ上の点を選ぶ問題では、正答率が80%を下回り、分野によっては基本的な内容の定着に課題が残る結果となった。

③ 「関数」

身近な事象において、数式を用いて数値を求めたり、一般的な事象の説明をしたり、与えられた関数の式を用いて問題を解決したりすることをねらいに出題した。全体的にはまずまずの結果であったが、理由を説明する問題の正答率は12.4%、部分正答は57.9%であり、説明に必要な事柄を正確に記述するという点で課題の残る結果となった。

④ 「資料の活用」

身近な事象の統計に関して、全数調査および標本調査の結果をもとに、基礎的な内容と適切な処理により資料の傾向を読みとることをねらいに出題した。「階級の幅」や「標本の大きさ」を答え

る問題では正答率が62.7%、「中央値が入る階級の階級値」を求める問題では、正答率が48.0%と、統計に関する基本的な知識の定着にやや課題が残る結果となった。資料の傾向を読み取る問題についても、「説明」については、正答率が19.4%（部分正答率については27.3%）、「推測」については正答率が54.4%となり、「割合」を適切に処理したり、それをを用いて説明したりするなどの力に課題が残る結果となった。

5 「関数・平面図形」

関数のグラフとそれによりできる座標平面上の図形に関する事柄を、座標や平面図形の基本事項を用いながら考察し、処理することをねらいに出題したが、全体的に正答率は低いものとなった。特に、最大値や面積比に関する問題では、平行四辺形の性質を用いて考察することになるが、いろいろな場合を想定しながら考察する必要があるが、正答率はいずれも低かった。また、三角形の合同を用いて平行四辺形の性質を証明する問題でも、理由の説明不足や仮定と結論などを適切に扱うことができていないなど、証明に関する理解に課題が残る結果となった。

6 「平面図形・空間図形」

円を題材に、円周角の性質などの図形の性質と関連づけながら、角の大きさや長さ、面積、回転体の体積について考察することをねらいに出題した。全体的に正答率は低く、相似な三角形をすべて記述する問題では、正答率が5.5%（部分正答率については22.1%）で、基本的な知識の定着に課題が残る結果となった。また、回転体に関する問題では、与えられた条件を丁寧に処理し、次の段階につなげていく力に課題が残る結果となった。

5 全体を通しての考察

基礎的・基本的な知識や技能については、分野によってはやや不十分であるが、全体的には習得されていると考えられる。しかし、その一方で事象を数学的に捉え、既習の知識や技能を活用して、幾つかの段階を踏んで処理する能力には課題が残る結果となった。数学的な見方や考え方を問う難易度の高い問題も含まれていたが、問題場面の状況を定式化したり、図形的に考えたりしながら、そこに潜む関係を明らかにすることで、基本的な公式や処理により正答を導くことができる問題であった。こうした段階を踏みながら問題を解決していく能力が十分とはいえなかった点は残念であった。また、理由の説明や証明などの記述を求める問題では、8割から9割の受検生が記述しているものの、内容に不十分な点が多く、筋道を立てて必要なことを記述することに課題が残る結果となった。様々な場面を設定した事象を題材に、数学的な表現を用いて関係を紐解き、根拠を明らかにしながら筋道を立てて考察する力を高めるような授業の推進が一層望まれる。

○ 理 科

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 学習指導要領の趣旨に基づき、「自然の事物・現象に進んで関わり、目的意識をもって観察、実験などを行う」に留意した。また、理科への興味・関心、思考力・判断力・表現力が見られるようにした。
- ② 全学年にわたり、第1分野、第2分野の全領域から偏りのないように出題した。
- ③ 観察、実験を重視し、自然の事物・現象を理解するための基礎的・基本的事項について検査できるようにした。
- ④ 問題解決の力や論理的な思考力が検査できるようにした。
- ⑤ 自然の事物・現象に関心を持ち、学習したことを基に考えようとする力を検査できるようにした。
- ⑥ 身近な材料を扱い、実社会・実生活との関連を実感できるようにした。

2 得点別に見た度数分布

平均点は、44.2点で前年より6.3点低い。最高点は98点、最低点は1点で、その得点分布は（図5-1 P17）に示すとおりである。

男女別の平均点を比較すると、男子は44.9点、女子は43.4点で、男子が女子を1.5点上回った。男女別の得点分布は（図5-2 P17）に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成24年度から今年度までの5年間の全体平均点は（図5-3 P20）のように推移している。平成24年度、平成26年度は40点台、平成25年度、昨年度は50点台であったが、今年度は5年間で最も低い平均点となった。選択問題が減り、思考力を問う計算問題が増えたため、また、論述問題の正答率が低かったためと考えられる。男女別比較でみると、毎年男子が女子を上回っている。

4 大問別の内容と調査結果の分析（正答率調査表 P22）

① 「人の体のつくりと働き」

消化酵素について、小腸で体内に吸収されたブドウ糖が最も多くふくまれる血液が流れる血管について、また、「静脈」、「心臓内の血液の流れ」について、正しく理解しているかを確認した。さらに、細胞の中で養分は、酸素を使って、水と二酸化炭素に分解されるときにエネルギーがとり出されることを正しく理解し、論述により表現できるかを確認した。基本的な問題が多く、全体的に正答率は高かったが、論述問題は正答率が23.6%と低く、課題が見られた。

② 「火山活動と火成岩」

花こう岩に含まれている鉱物の割合について正しく理解しているか、玄武岩の色が安山岩よりも黒っぽい色になっている理由を論述により表現できるかを確認した。また、セキエイの色や特徴について、さらに石基、斑状組織、等粒状組織について、正しく理解しているかを確認した。基本的な問題が多く、全体的に正答率は高かった。内容の定着が図られていると考えられる。

③ 「圧力」

水槽Aと水槽Bの質量と底面積から圧力の大きさを計算によって求めることができるか、水の深さのちがいでより水圧が異なることについて正しく理解しているかを確認した。また、浮力のはたらく理由を論述により表現できるか、水の深さと浮力との関係を正しく理解しているかを確認した。全体的に正答率は低く、その中でも、水槽が床をおす圧力を計算で求める問題の正答率は7.4%及び9.2%と他と比べ非常に低かった。論述問題は無答率が14.4%と高く、課題が見られた。

④ 「酸・アルカリとイオン」

青色リトマス紙上の赤色のしみの変化を正しく判断し、その理由をイオンに着目して論述により表現できるかを確認した。また、水溶液のpHの値を正しく理解しているか、水酸化ナトリウムが電離している様子を電離式で正しく表現できるか、中和する時の水酸化ナトリウム水溶液の量と水酸化イオン数との関係について、正しく理解しているかを確認した。さらに、質量パーセント濃度10%の塩酸を3%にうすめるときの原液と加える水の質量を計算によって求めることができるかを確認した。全体的に正答率はやや低く、その中でも濃度の計算問題の正答率は7.9%と低かった。無答率も他と比べ32.8%と高く、課題が見られた。

⑤ 「日本の気象」

天気図からP点の気圧の大きさを正しく読みとることができるか、4月の天気が短い周期で変わる理由を論述により表現できるかを確認した。また、夏のユーラシア大陸上の気圧と太平洋上の気圧について、夏の季節風について、正しく理解しているかを確認した。さらに、冬の天気の特徴について、誤っている文を選び、正しく書き直すことができるかを確認した。全体的に正答率はやや高かったが、4月の天気が短い周期で変わる理由を求めた論述問題の正答率は33.6%と他と比べ低く、課題が見られた。

6 「生物の成長と殖え方」

植物の根の先端で細胞分裂が起きている部分について、細胞分裂の過程の順について、正しく理解しているかを確認した。さらに、細胞分裂の後期の染色体の位置について、正しく判断し、図示することができるかを確認した。また、花粉管が伸びる時に必要な物質、花粉管が胚珠まで伸びること、精細胞について正しく理解しているか、さらに、受精卵1個に含まれる染色体数と卵細胞に含まれる染色体数の数量との関係について正しく判断し、その理由を論述により表現できるかを確認した。全体的に正答率は標準的であったが、染色体数の関係について正しく判断し、その理由を求めた論述問題の正答率は、11.8%と低く、課題が見られた。

7 「化学変化」「化学変化と物質の質量」

ピンチコックでゴム管を閉じる理由を論述により表現できるか、酸化銅が炭素により還元される化学反応について原子のモデルを用いて表現できるかを確認した。また、与えられた酸化銅、炭素、加熱後の試験管に残った固体の質量から、発生する気体の質量を計算によって求めることができるか、さらに、酸化銅3gと過不足なく反応する炭素の質量について計算によって求めることができるかを確認した。全体的に正答率は低く、その中でも、ゴム管を閉じる理由を求める論述問題の正答率は16.4%と低く、また、酸化銅3gと過不足なく反応する炭素の質量について求める計算問題の正答率は1.5%と非常に低い上に無答率が60.3%と非常に高く、課題が見られた。

8 「電流」「エネルギー」

電圧と抵抗の値から、電流の値と電力の値を計算によって求めることができるかを確認した。また、与えられたグラフから、電力と水の上昇温度の比例関係を読みとり、電熱線Aと電熱線Bを直列につないだ回路での結果をグラフに表すことができるかを確認した。さらに、水が得た熱量が電力により発生する熱量と比べて小さくなることから、水の温度上昇に使われなかった熱量を計算によって求めることができるか、電気エネルギーがすべて運動エネルギーに変換されていない理由を論述により表現できるかを確認した。全体的に正答率はやや低く、その中でもグラフをかく問題の正答率は9.8%と低かった。また、水の上昇温度に使われなかった熱量を求める計算問題の正答率は5.0%と低く、課題が見られた。

5 全体を通しての考察

中学校の学習指導要領に示された目標・内容に則して、基本的な学力及び科学的思考力、判断力、表現力を確認する形式の問題を多く出題した。また、昨年度と同様に、確かな知識やデータを活用して表現する力を確認するために、基本的な現象や実験結果等の理由について説明を要する論述問題を各大問に出題したが、全体的な難易度は昨年度と同程度にした。基礎的・基本的な知識や技能については、定着の高い項目も見られたが、思考力を要する計算問題、論述問題、知識やグラフ等を活用して正答を導く問題の正答率が低く、無答率が高いものもあった。幅広い知識の定着と同時に、知識やデータを活用して思考する力や、その過程や根拠・理由を表現する力の育成が望まれる。

○ 英 語

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示されている外国語の目標及び内容に則して、基礎的・基本的な事項の理解度を評価できるように配慮し、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の各領域にわたって出題し、総合的な英語の学力を検査できるようにした。
- ② 学習指導要領では、「聞くこと」「話すこと」などのコミュニケーション能力を重視していることから、リスニングテストに言語の使用場面や発話の意図に関わる問題を取り入れ、リスニングテストの比重を約30%とした。
- ③ 「読むこと」については、昨年度よりも語数を増やした。長文により、生徒の英語を理解する能力を様々な方法で検査できるようにした。また、与えられた日本語の内容に合う英文を書かせる英作文や、読解した英文等を活用して将来の目標について英文で書かせるなど、自己表現させる問題を取り入れることによって、コミュニケーション能力の重要な要素である「表現力」も検

査できるように配慮した。自己表現に関する設問の採点に当たっては、コミュニケーションを妨げないようなミスは減点の対象としないこととした。

2 得点別に見た度数分布

平均点は45.9点で、前年より6.8点下がった。最高点は100点、最低点は2点で、その分布は(図6-1 P18)に示すとおりである。

男女別の平均点を比較すると、男子は44.4点、女子は47.6点で、女子が男子を3.2点上回った。男女別の得点分布は(図6-2 P18)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成24年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図6-3 P20)のように推移している。

今年度の平均点は昨年度を下回った。大問1～3は主に「聞くこと」に関する力を検査しているが、今年度も大問3に、日本語ではなく英語を記述する「書くこと」も重視した出題をした。選択問題である大問1と2については昨年同様に平均点は高く、受検生に一定の「聞く力」が養われていることがうかがわれる。しかしながら、「聞いて書く」ことを求めた大問3については正答率が低く、「書くこと」についての力を「聞くこと」と併せて育成することが求められる。大問4及び5の英文については、語数を昨年度より増やし、1000語程度にしなが、まとまった英文を限られた時間内に的確に理解する力を検査できるようにした。「読むこと」に関する力と「書くこと」に関する力をより一層、総合的に育成していくことが求められる。

また、男女別比較で見ると、昨年同様、女子が男子を上回っており、その差も3.2点と昨年の3.6点とほぼ同様である。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P23)

① 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」に係る問題

短い会話を聞いて問いに対する答えを選ぶ問題で、様々な場面でのコミュニケーション能力を検査したり、言語の使用場面や発話の意図を理解できるかを評価したりできるようにした。平均正答率は、75.7%と昨年度の79.4%をやや下回った。

② 「聞くこと」「読むこと」に係る問題

初対面の外国人との会話の進め方についての英文を聞いて、内容に関する質問に答える問題。テーマや文脈を理解した上で、内容に関する質問を聞き取り、適切な答えを選択できるかを試している。平均正答率は72.9%と昨年度の78.9%をやや下回った。特に本英文の趣旨にかかわる問2で正答率が57.9%と差がついた。

③ 「聞くこと」「書くこと」に係る問題

英文を聞き取り、英語のメモを完成させる問題。英文を聞き取った上で、解答に必要な情報を選び出しそれを書く力を試す問題である。カナダからの留学生によるカナダの学校生活についての英文を聞き、「聞くこと」と「書くこと」の2つの能力を検査できるようにした。平均正答率48.7%と、昨年の41.6%をやや上回った。複数の技能を統合する力は今後も課題であると思われる。

④ 「読むこと」「書くこと」に係る問題

中学生の正夫が、外国語指導助手のBrown先生に“re-”や“-less”などの語が持つ意味や使い方についてたずねる場面である。英語を運用する上で必要な基礎的言語材料(単語、文法等)について知識、文脈を把握した上で読解したり、表現したりする能力、英語を言い換えて表現する能力、日常的な事柄を英語で表現するための基礎的な能力等を検査できるようにした。単語の空欄補充問題では、文脈を読み取った上で知識を活用するようにした。また、英文の空欄補充問題では本文の文脈に合わせて適切なものを補充させる形式にするなど、様々な観点から読解力を検査できるようにした。また、英語で表現する基本的な能力を検査できるようにした。

設問1では、単語の基礎的な意味や形を問う内容であったが、平均正答率30.3%とかなり低い結果となった。

設問2の与えられた日本語の内容に合う英文を書かせる問題では、2点以上の得点であった者が35.0%、設問6では24.4%と、それぞれ昨年の59.5%、49.9%をかなり下回った。基本的な英語表現の力の定着については、今後も状況を見極めていく必要がある。

設問7の本文と同じ内容になるよう英文中に適語を入れる問題は、平均正答率が36.0%と低かった。英文の概要を把握して必要な情報を得る力に課題があると思われる。

5 「読むこと」「書くこと」に係る問題

高校生の直子のスピーチコンテストでの原稿が題材である。ある日、直子の通う学校にオーストラリアからの留学生Judyがやって来るが、日本語がうまく通じないために友人が作れない。やがて直子も英語を学ぶために半年間アメリカへ行くことになるが、彼女自身もJudyと同じ経験を味わうことになる。そんな孤独な直子にBobという優しい生徒が声をかけた。そこで初めてJudyの気持ちを直子が理解するという内容である。

出題にあたっては、質問の答えを選択させたり、内容を要約した英文を完成させたり、文中の空欄に文脈から判断して適切な英文を補充させたりすることで、様々な観点から英語を読解する能力を検査できるようにした。また、将来の目標を5つ以上の英文で書かせることで、コミュニケーションが成立するように英語で適切に表現する能力を検査できるようにした。この設問では、コミュニケーションを妨げない綴りのミスなどは減点しないこととした。

設問3では、時系列で出来事を正しい順番に並べかえる力が求められたが、正答率は8.4%とかなり低かった。この力についても、今後引き続き養っていくことが課題と思われる。

設問5は、本文の内容を要約する問題であるが、平均正答率は19.7%と低く、昨年の34.9%をさらに下回った。これは読解した英文を適切に要約する力を試す問題であるが、文法知識と文脈を理解する力の両者が求められているため昨年同様に正答率が低い結果になったと推測される。

設問6は本文を踏まえ、自分にとって大切な経験を5つ以上の英文で書く問題であったが、満点の割合は11.4%と昨年の26.0%を下回った。無答の者は17.7%で、昨年の16.6%とほぼ同じであった。5点以上の得点の者も41.7%と、昨年の59.6%を下回った。読む英文の量が昨年よりも増加したため、読解に時間がかかり、この設問に時間を割くことができなかったことが考えられる。自分の考えを適切に相手に伝えるということを意識しながら、ある程度のまとまりのある英文を決められた時間内で読み取り、学習した英語を使って表現する力を高める指導がさらに求められる。

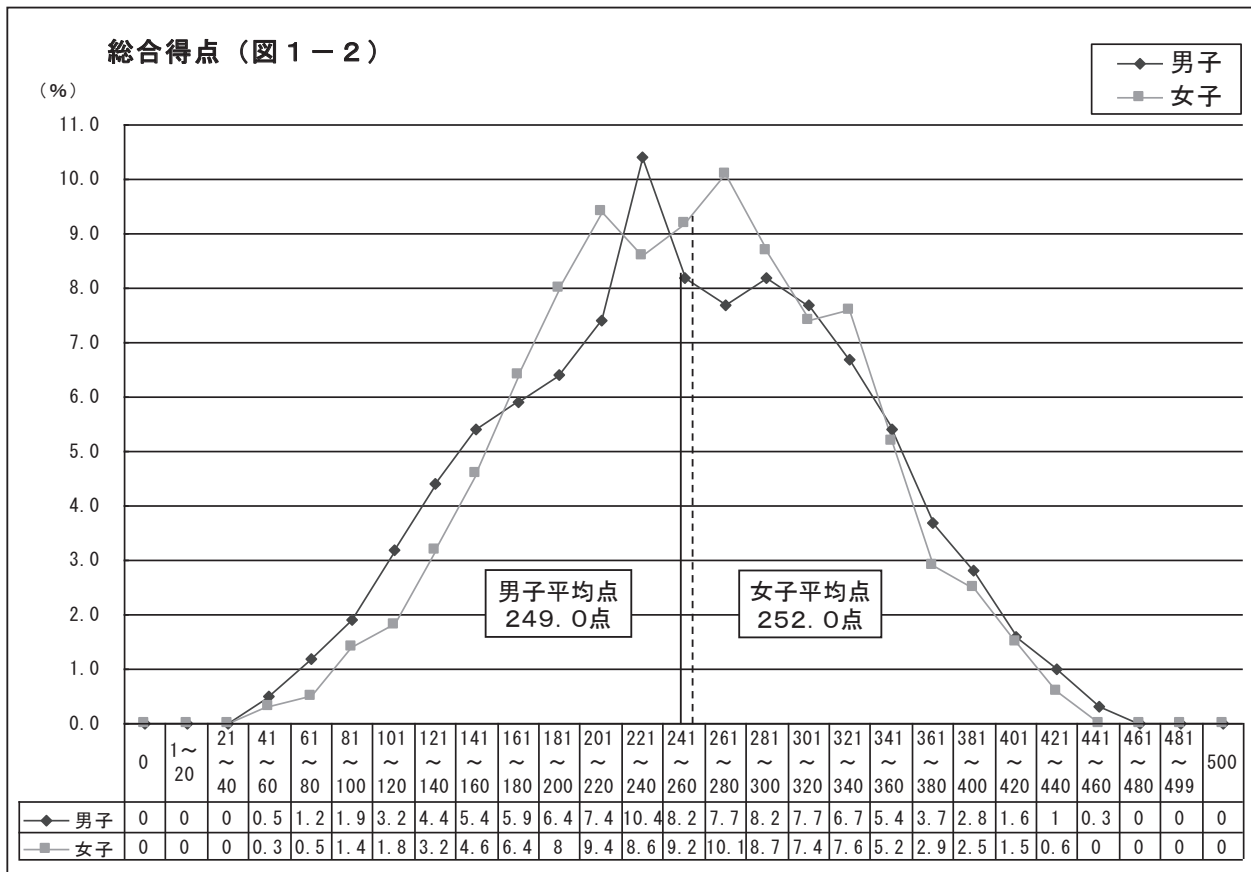
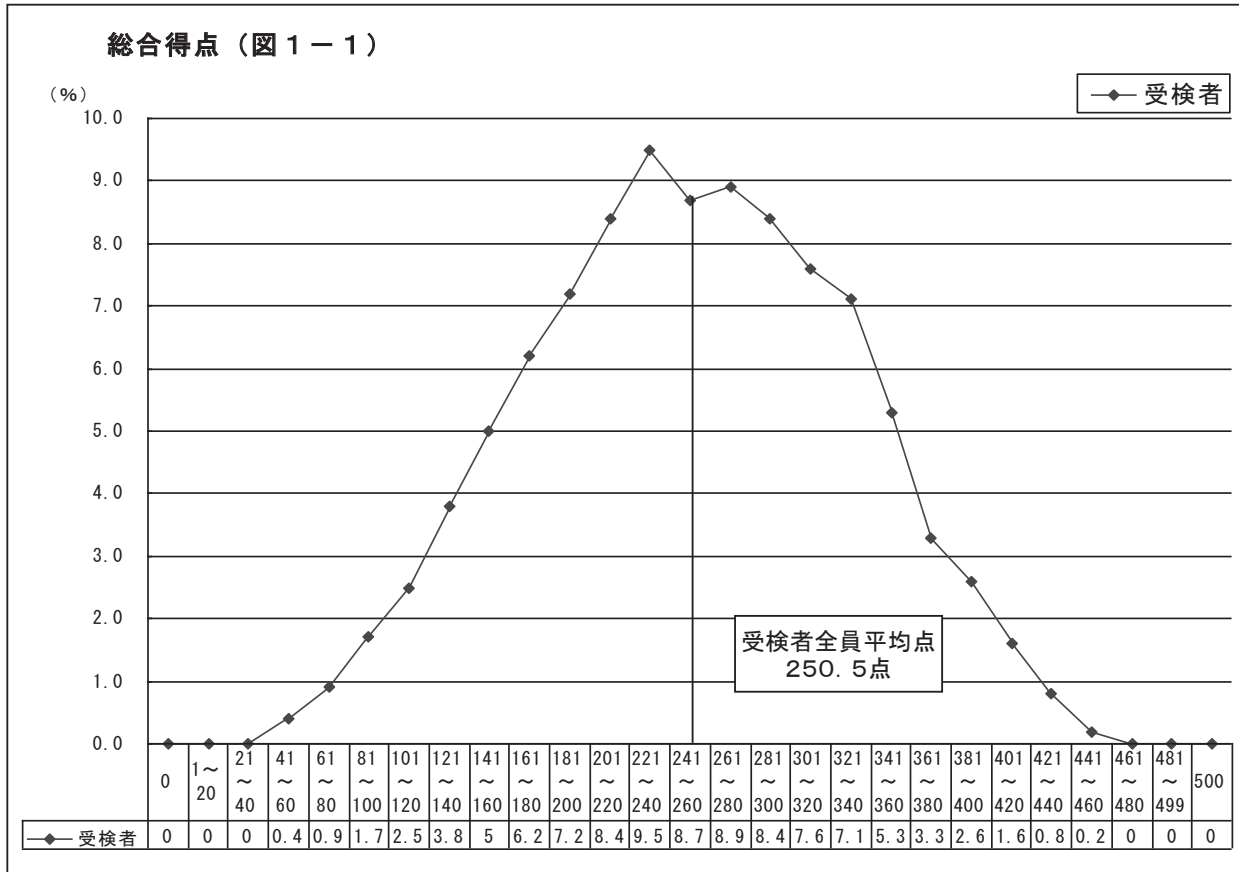
5 全体を通しての考察

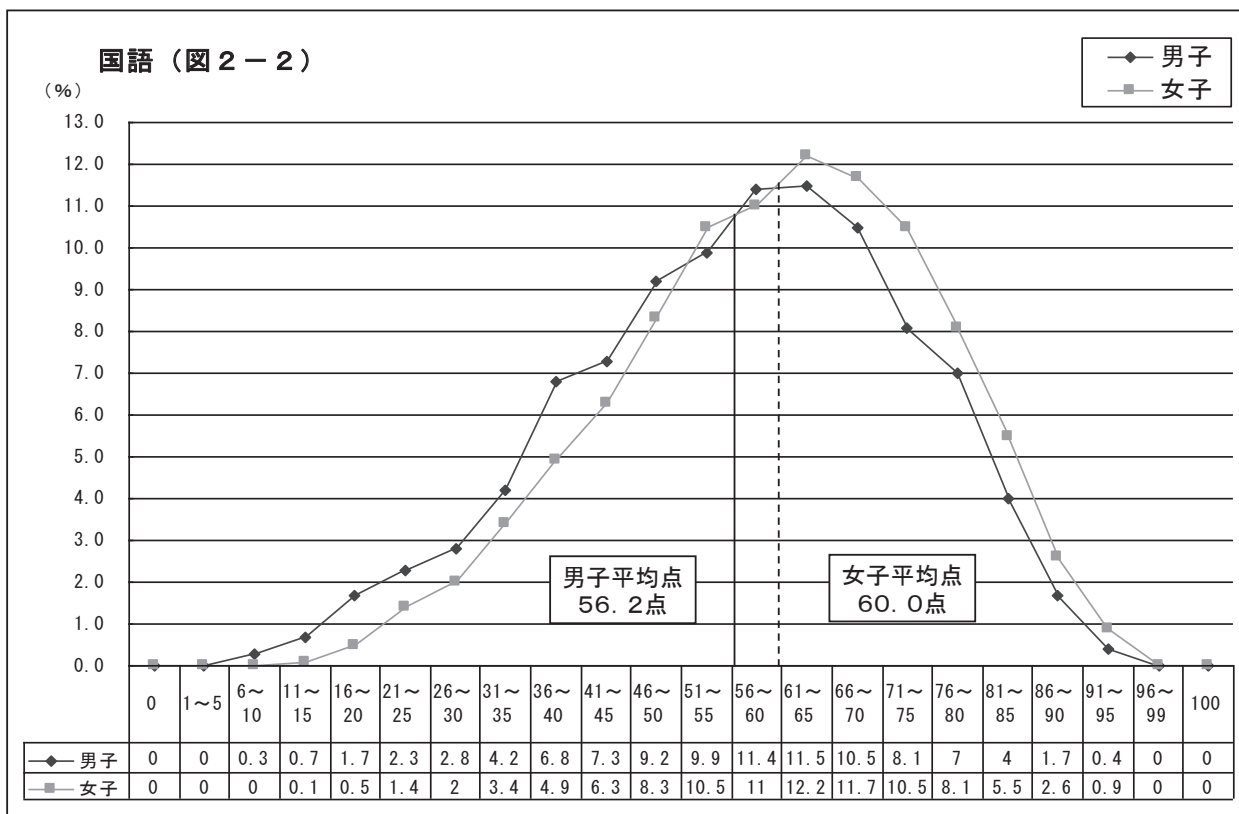
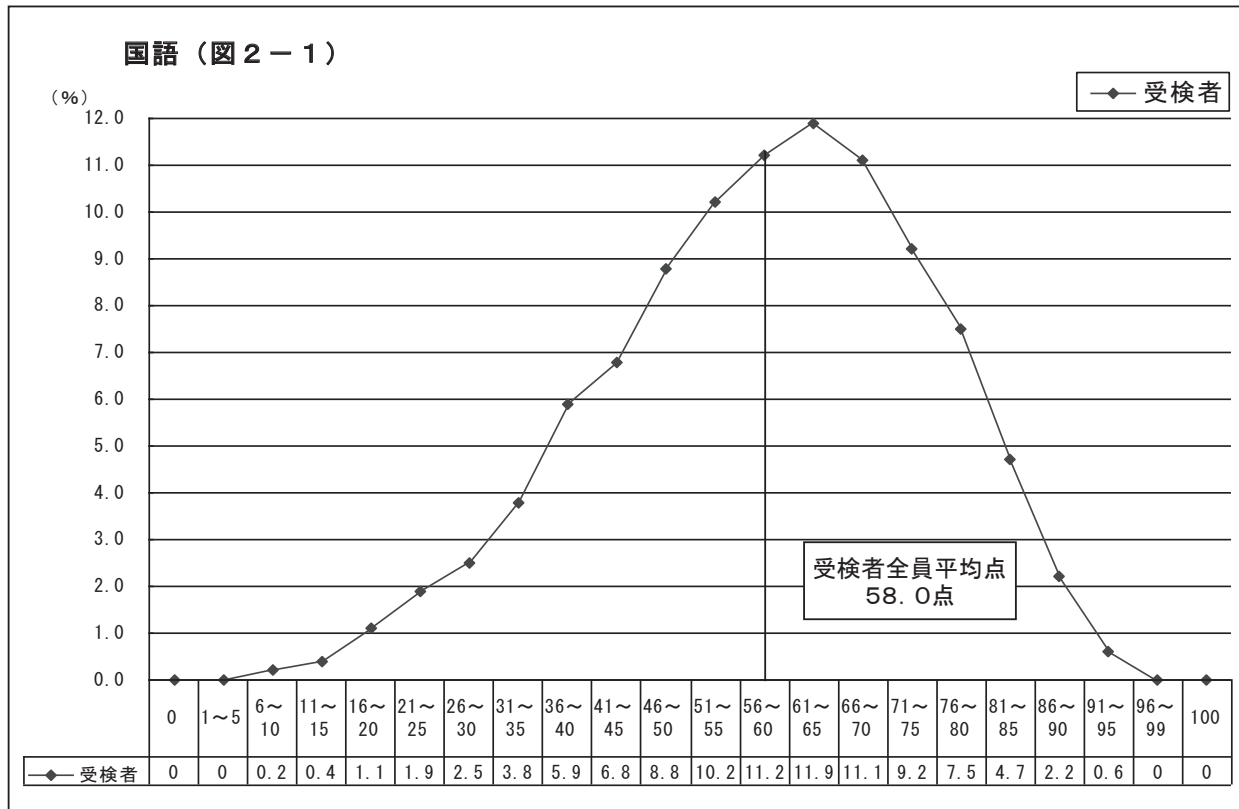
「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域について、知識・理解に偏ることなく、基本的な英語運用能力を検査できる問題とした。

「聞くこと」については、基本的な能力は概ね良好と言える。ただし、得られた情報をもとに正しい答えを導く力を養うことが今後の課題だと言える。

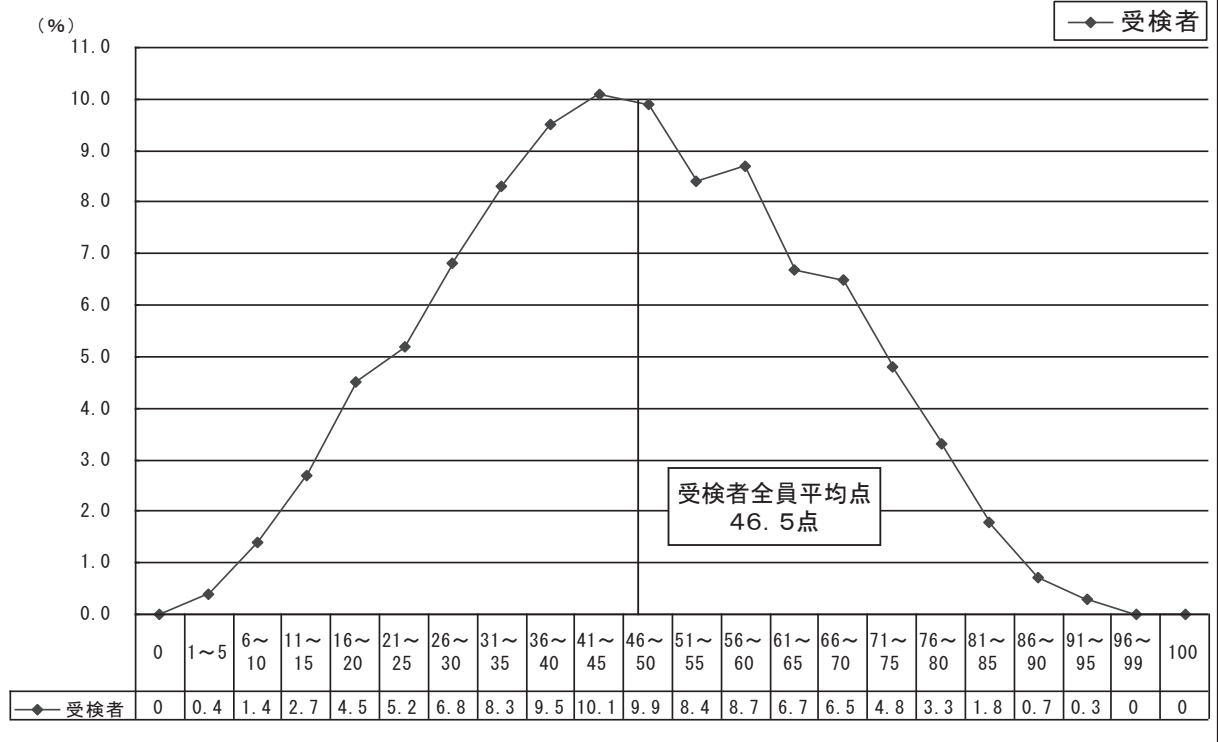
「読むこと」については、英文を読んで内容を理解できるかどうか、様々な観点から評価できるようにした。内容を理解した上で、文脈を踏まえて自分の表現で要約する力の育成については、昨年と同様に課題である。

「書くこと」については、与えられた英文を理解した上で、その内容やテーマに関して自分の考えをまとめた英語で表現できる英語力の育成が求められる。同時に学習した文法事項等を使って、的確に表現する力の育成も今後の課題である。

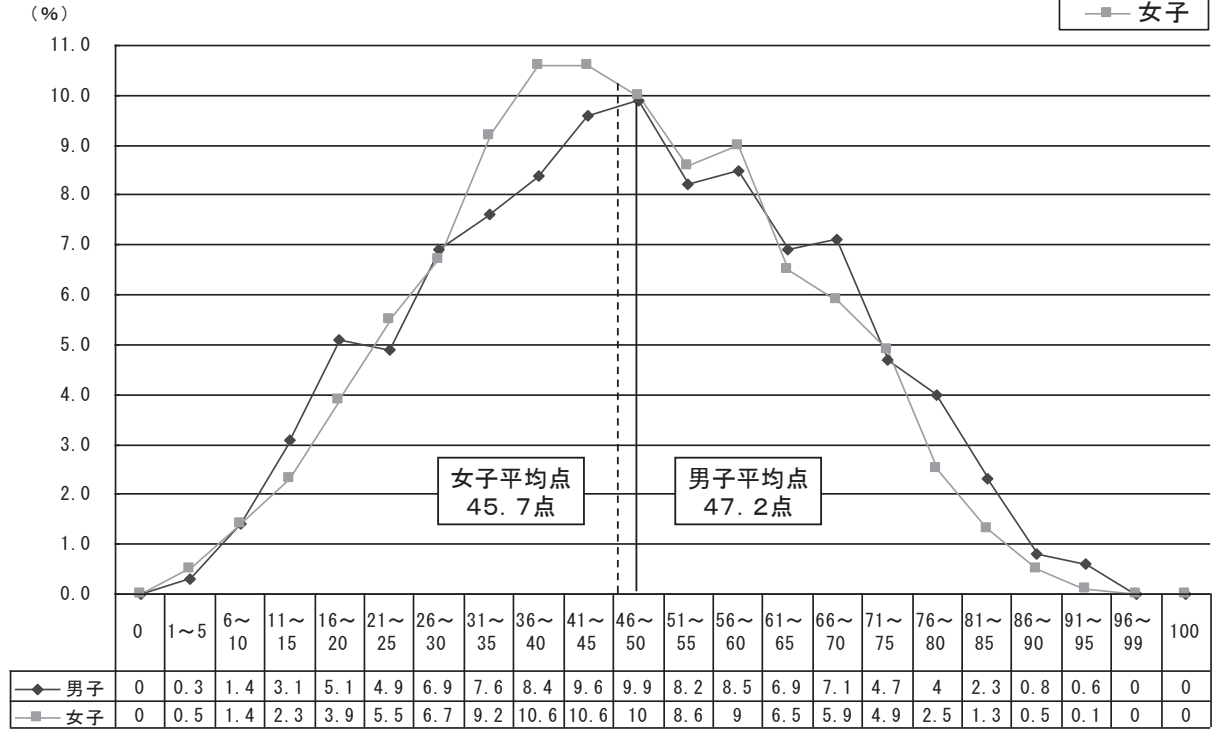




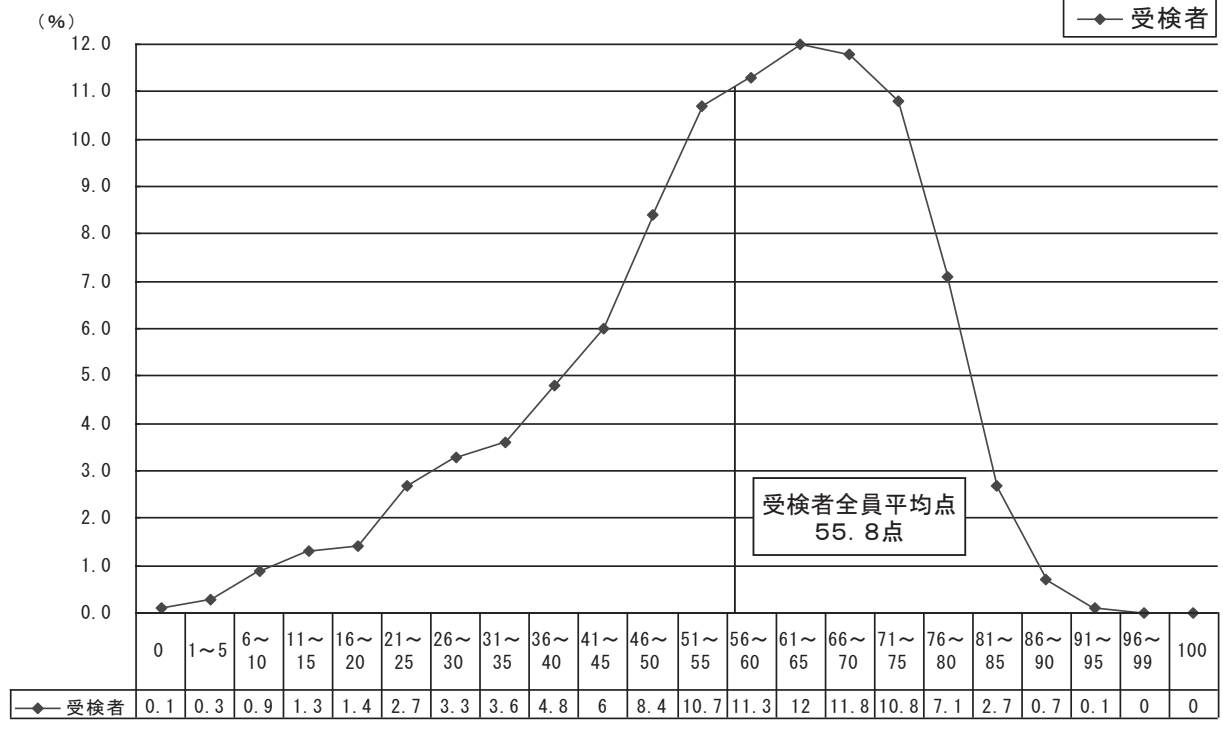
社会 (图3-1)



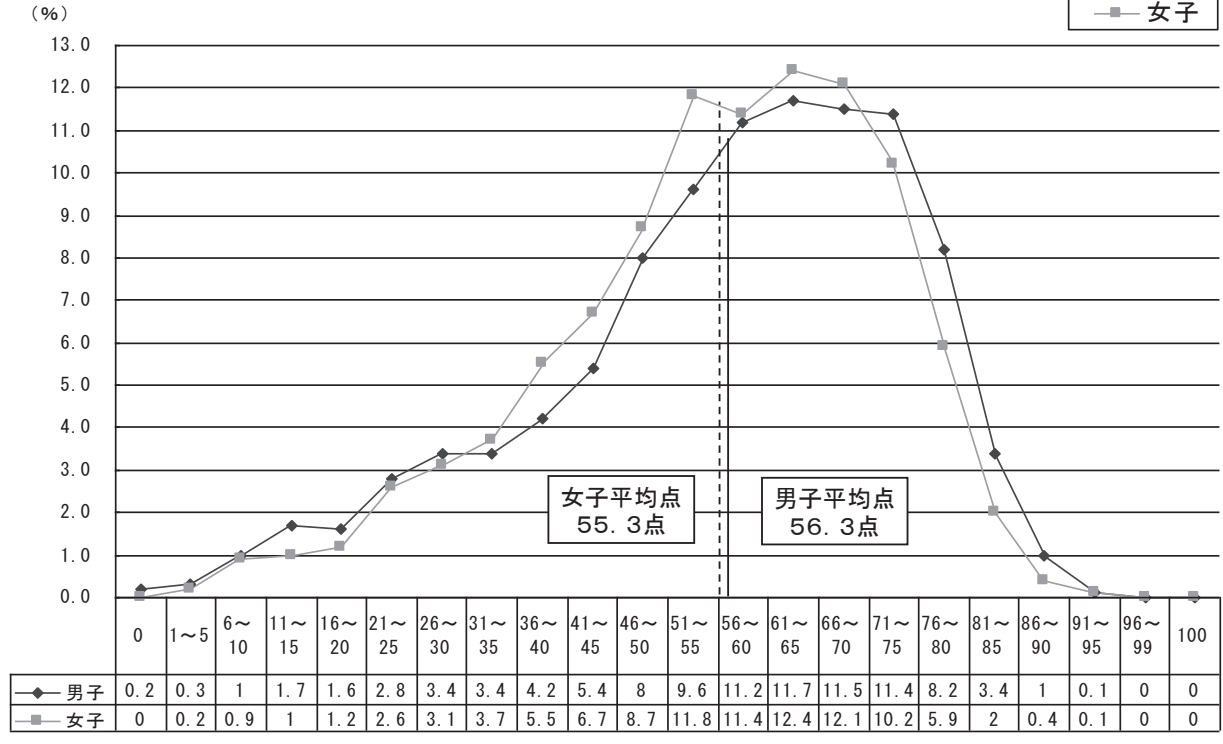
社会 (图3-2)



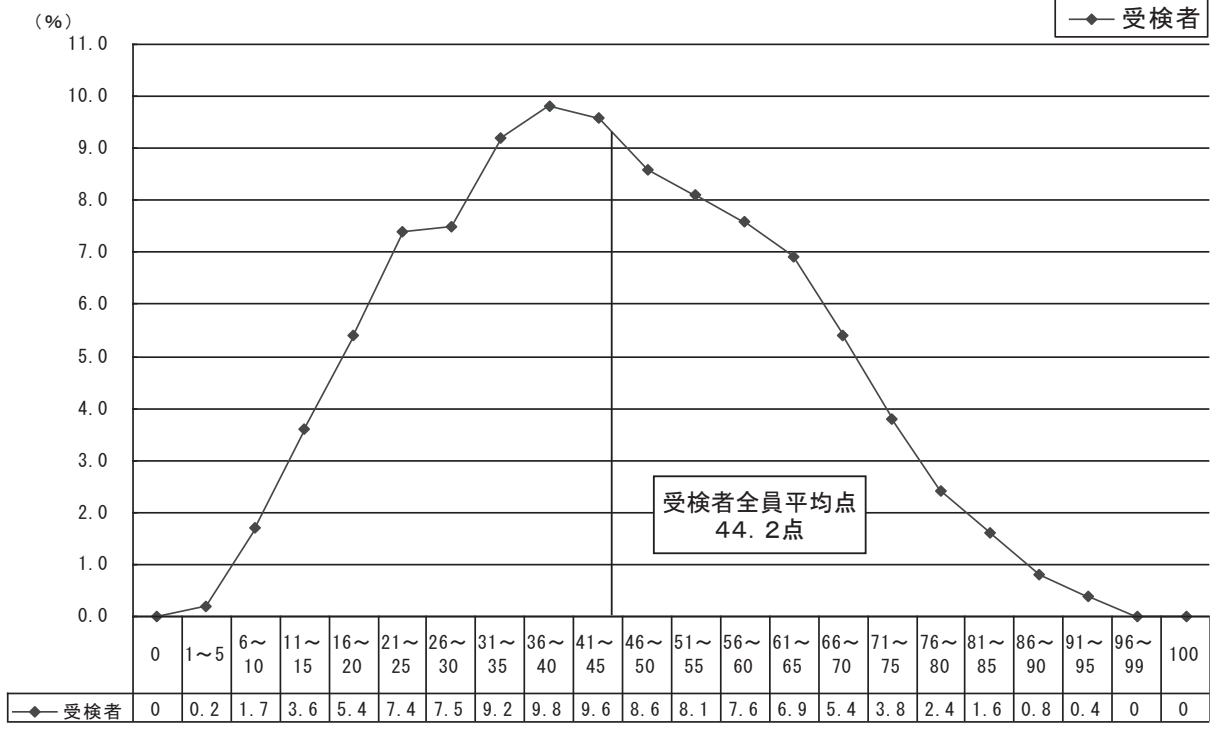
数学 (图 4-1)



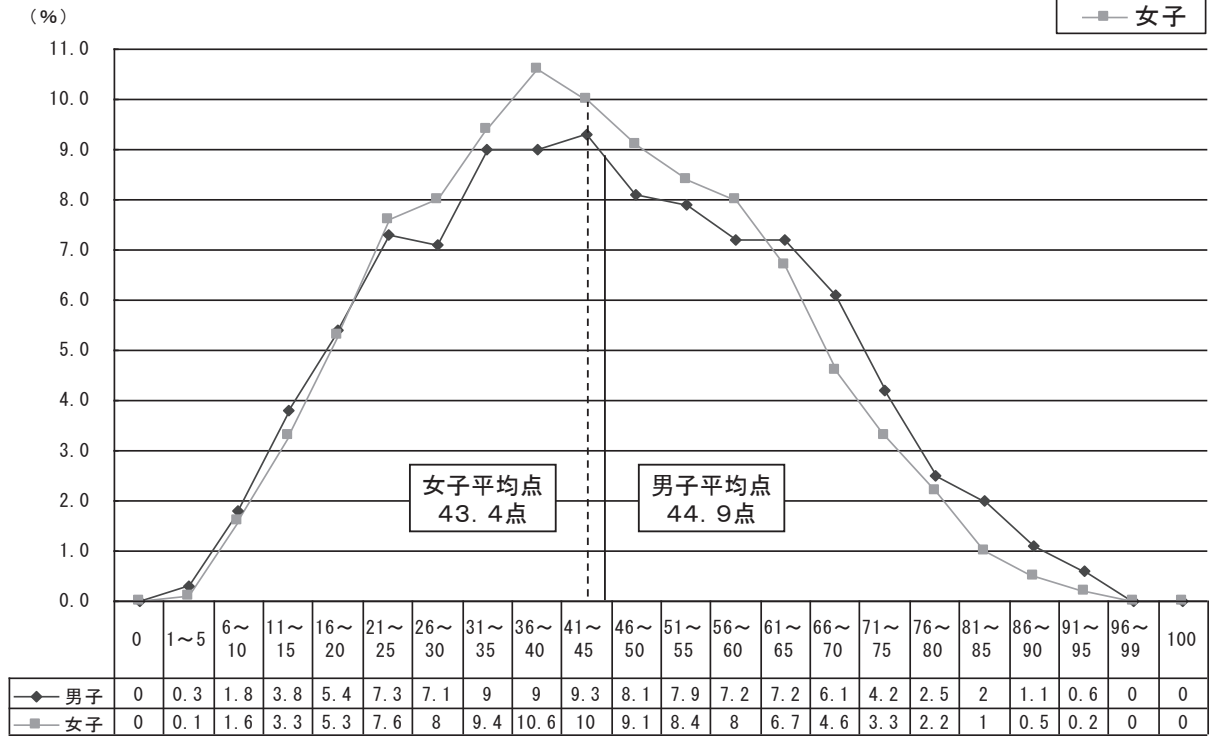
数学 (图 4-2)

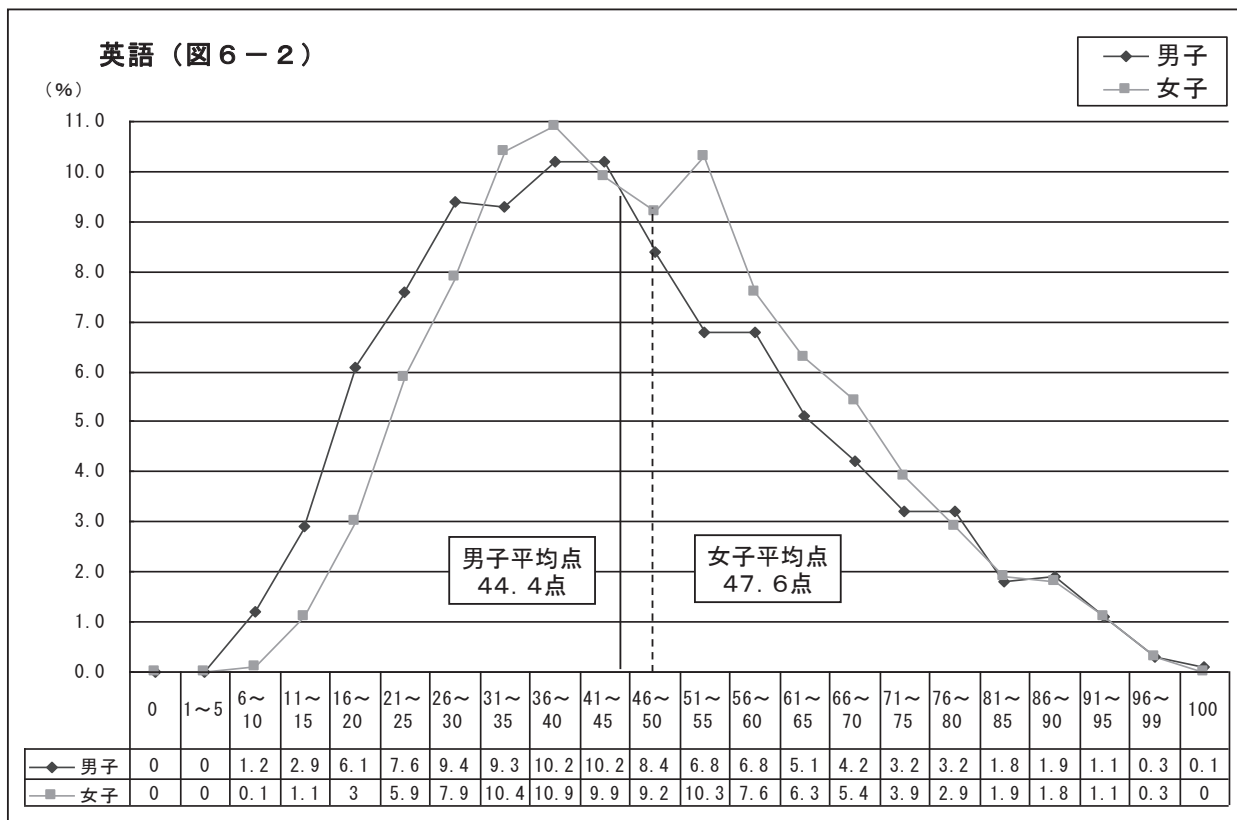
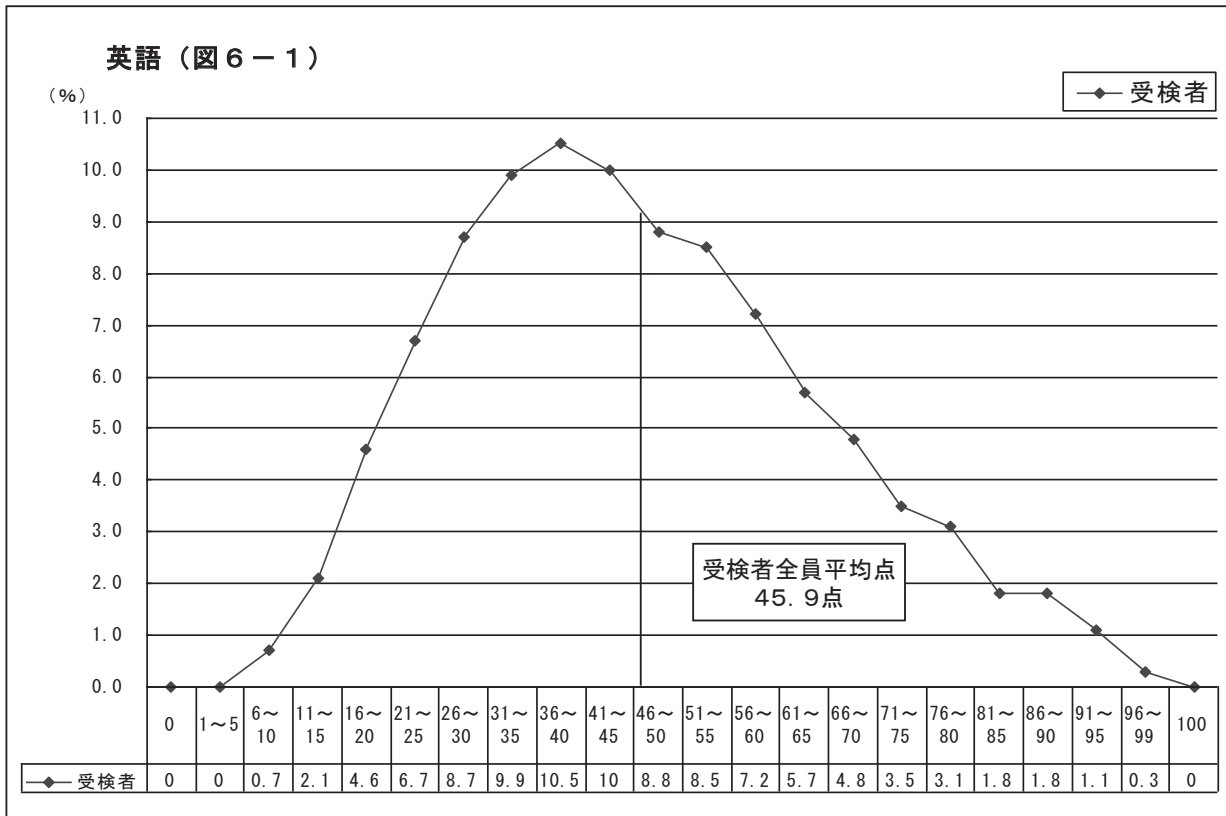


理科 (图 5-1)

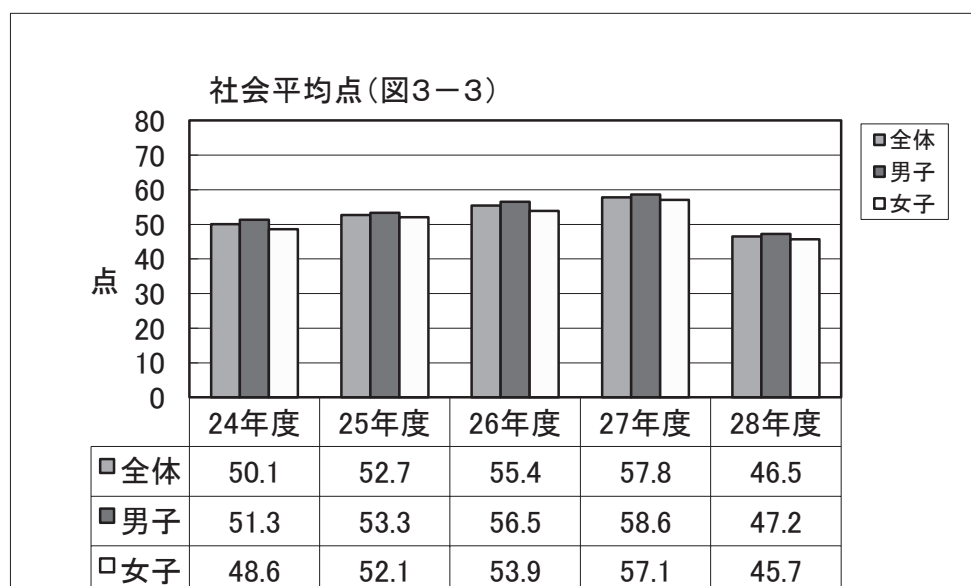
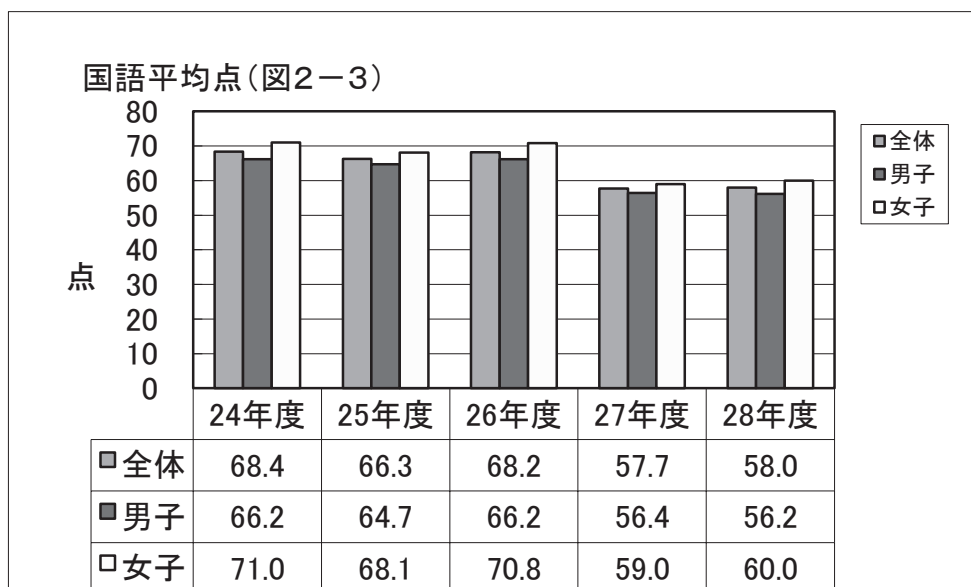
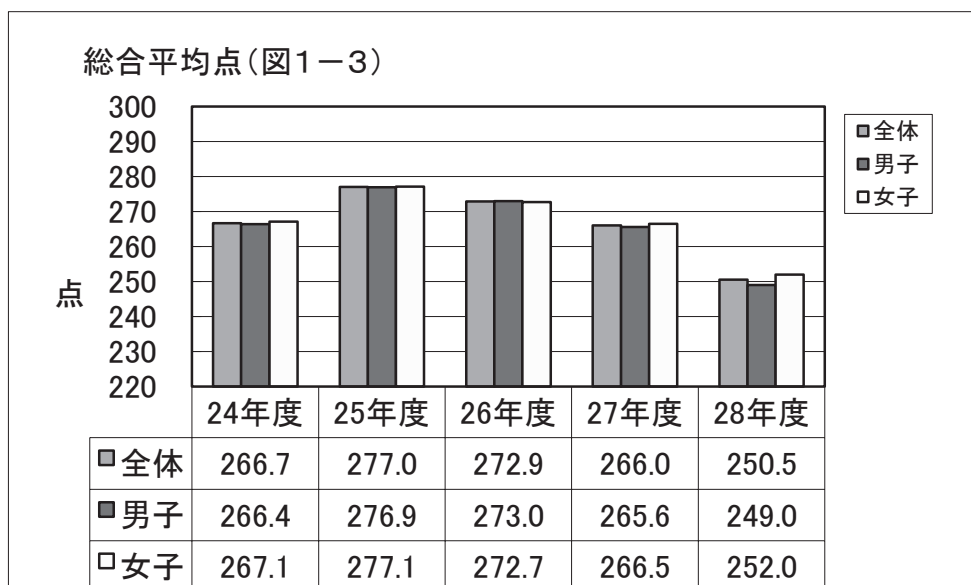


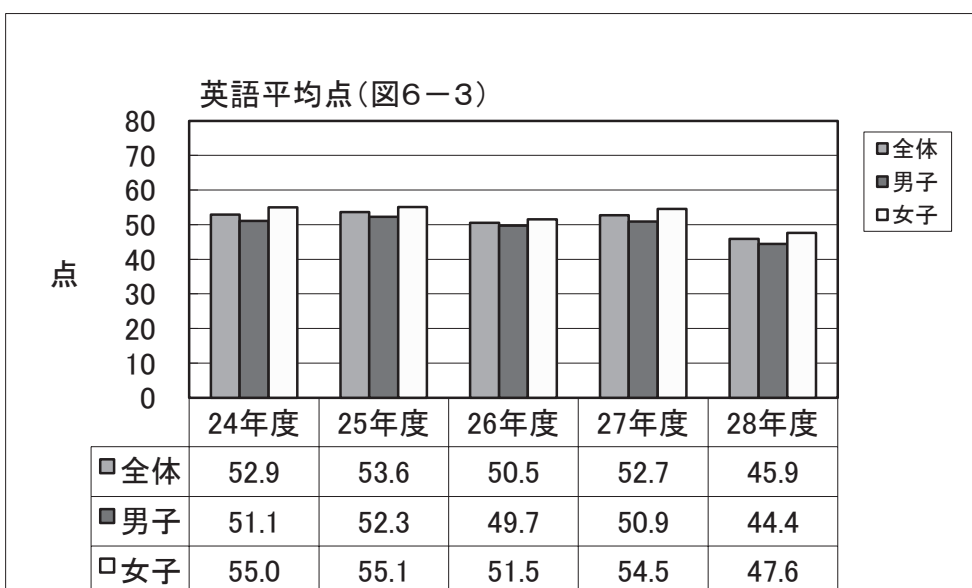
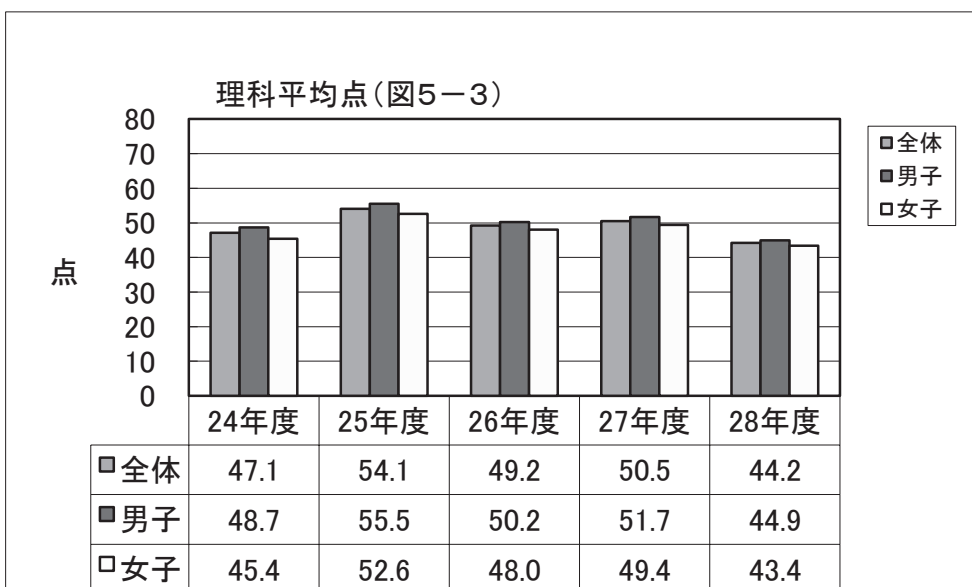
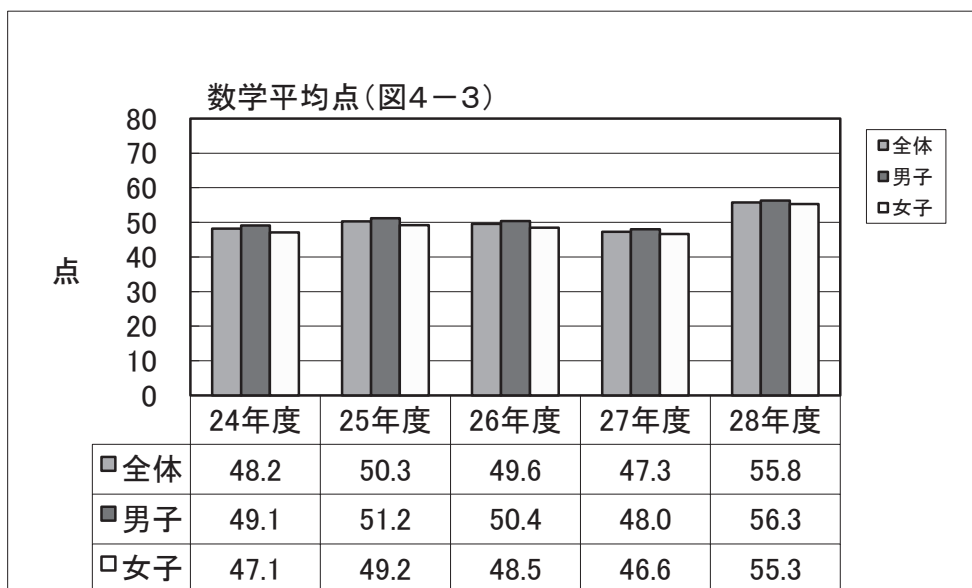
理科 (图 5-2)





平成28年度 学力検査結果





平成28年度 正答率調査表

【国語】

問 題		正答率	誤答率	無答率	
一	一	ア	66.8%	25.1%	8.1%
		イ	86.7%	11.6%	1.7%
		ウ	57.0%	35.2%	7.9%
		エ	77.7%	20.3%	2.0%
		オ	75.8%	19.0%	5.2%
	二	ア	51.7%	41.5%	6.8%
		イ	72.5%	24.2%	3.3%
		ウ	81.0%	16.2%	2.8%
		エ	73.1%	15.1%	11.8%
		オ	76.2%	18.1%	5.7%
三	69.9%	27.1%	3.1%		
二	一	86.2%	13.8%	0.0%	
	二	53.7%	38.4%	7.9%	
	三	38.6%	53.7%	7.6%	
三	一	88.4%	10.5%	1.1%	
	二	71.0%	28.8%	0.2%	
	三A	58.7%	35.8%	5.5%	
	三B	56.1%	36.2%	7.6%	
	四	46.9%	42.8%	10.3%	

問 題		正答率	誤答率	無答率	
四	一	32.1%	62.7%	5.2%	
	二	62.4%	32.8%	4.8%	
	三	(1)	27.3%	62.2%	10.5%
		(2)	19.0%	61.1%	19.9%
	四	48.7%	50.2%	1.1%	
五	一	71.2%	28.6%	0.2%	
	二	60.5%	37.3%	2.2%	
	三	63.8%	35.6%	0.7%	
	四	(1)	74.0%	17.5%	8.5%
		(2)	34.5%	50.0%	15.5%
	五	76.6%	20.3%	3.1%	
	六	点数	人数の割合	点数	人数の割合
		0	2.8%	8	11.6%
		1	0.2%	9	16.4%
		2	0.9%	10	12.9%
		3	1.1%	11	8.5%
		4	1.7%	12	4.4%
		5	5.2%	13	2.2%
		6	13.8%	14	1.5%
7	16.6%	15	0.2%		
無答(全く記入していない)の割合				0.4%	

【社会】

問 題		正答率	誤答率	無答率			
1	1	(1)	記号	60.7%	39.1%	0.2%	
			内容	2点	23.4%	57.2%	17.5%
				1点	2.0%		
		(2)	a	62.2%	36.0%	1.7%	
			b	9.6%	89.5%	0.9%	
	(3)	3点	46.9%				
		2点	9.4%	41.7%	1.3%		
		1点	0.7%				
	(4)	37.6%	53.9%	8.5%			
	(5)	27.9%	70.3%	1.7%			
	2	(1)	I	49.6%	44.3%	6.1%	
			II	59.8%	34.3%	5.9%	
			III	94.8%	4.4%	0.9%	
			IV	46.9%	46.5%	6.6%	
		(2)	66.4%	33.4%	0.2%		
(3)		20.7%	78.6%	0.7%			
(4)		3点	5.9%				
		2点	1.5%	65.9%	24.9%		
	1点	1.7%					
2	1	(1)	ア	88.6%	8.7%	2.6%	
			イ	83.6%	15.9%	0.4%	
		(2)	34.3%	65.3%	0.4%		
		(3)	語句	2点	77.3%	5.5%	5.0%
				1点	12.2%		
		影響	2点	53.5%	23.1%	12.9%	
			1点	10.5%			
	(4)	39.5%	60.3%	0.2%			
	(5)	3点	17.7%				
		2点	17.7%	55.9%	8.7%		
		(1)	①	2点	46.5%	42.1%	7.9%
				1点	3.5%		
		②	X	60.7%	35.4%	3.9%	
			Y	76.9%	20.7%	2.4%	
(2)		40.0%	59.0%	1.1%			
(3)	2点	66.2%	33.0%	0.4%			
	1点	0.4%					
(4)	7.0%	92.6%	0.4%				
(5)	14.8%	84.3%	0.9%				

問 題		正答率	誤答率	無答率			
3	1	(1)	3点	44.5%			
			2点	2.6%	51.1%	1.7%	
			1点	0.0%			
	(2)	3点	37.1%				
		2点	0.9%	52.0%	10.0%		
	2	(1)	2点	60.5%	31.9%	3.3%	
			1点	4.4%			
		(2)	56.1%	38.6%	5.2%		
	3	(1)	83.6%	15.7%	0.7%		
			(2)	2点	36.7%	45.2%	17.5%
				1点	0.7%		
		(3)	㉠	54.6%	44.8%	0.7%	
		㉡	74.0%	22.5%	3.5%		
4	(1)	77.3%	22.5%	0.2%			
	(2)	3点	34.1%				
		2点	9.4%	45.9%	10.7%		
5	(1)	49.8%	48.9%	1.3%			
		3点	22.7%				
	(2)	2点	8.1%	52.8%	16.4%		
4	1	(1)	2点	29.9%	41.3%	27.9%	
			1点	0.9%			
		(2)	3点	30.1%	67.7%	1.1%	
			2点	1.1%			
	2	2点	58.5%	40.2%	1.1%		
		1点	0.2%				
	3	(1)	3点	48.0%			
			2点	0.0%	51.1%	0.7%	
			1点	0.2%			
		(2)	50.7%	48.0%	1.3%		
4	(1)	3点	33.6%				
		2点	10.3%	33.0%	18.3%		
		1点	4.8%				
	(2)	㉠	77.5%	17.2%	5.2%		
		㉡	80.8%	12.9%	6.3%		
	㉢	55.5%	30.1%	14.4%			

【数 学】

問	題	正答率		誤答率	無答率	
		正答	部分正答率			
1	1	95.4%	/	4.6%	0.0%	
	2	88.4%	/	11.6%	0.0%	
	3	96.3%	/	3.7%	0.0%	
	4	79.3%	/	19.9%	0.9%	
	5	80.1%	/	19.7%	0.2%	
	6	92.4%	/	7.6%	0.0%	
2	1	80.8%	/	15.5%	3.7%	
	2	77.9%	/	21.4%	0.7%	
	3	72.9%	/	27.1%	0.0%	
	4	86.5%	/	13.3%	0.2%	
	5	84.5%	3.5%	10.0%	2.0%	
3	1	88.6%	/	10.3%	1.1%	
	2	82.1%	/	14.6%	3.3%	
	3	記号	80.1%	/	17.7%	2.2%
		理由	12.4%	57.9%	24.2%	5.5%
	4	62.2%	/	31.9%	5.9%	

問	題	正答率		誤答率	無答率	
		正答	部分正答率			
4	1	(1)	62.7%	/	35.8%	1.5%
		(2)	48.0%	/	47.4%	4.6%
		(3)	19.4%	27.3%	31.0%	22.3%
	2	(1)	62.7%	/	29.3%	8.1%
(2)		54.4%	/	37.3%	8.3%	
5	1	80.3%	/	16.4%	3.3%	
	2	17.2%	/	37.8%	45.0%	
	3	(1)	18.1%	54.4%	13.8%	13.8%
		(2)	0.2%	7.0%	19.7%	73.1%
6	1	(1)	37.8%	/	42.8%	19.4%
		(2)	14.0%	/	54.1%	31.9%
		(3)	5.5%	22.1%	65.3%	7.2%
	2	(1)	2.2%	/	71.0%	26.9%
(2)		0.7%	/	38.9%	60.5%	

【理 科】

問	題	正答率		誤答率	無答率	
		正答	部分点			
1	1	77.7%	/	19.7%	2.6%	
	2	65.5%	/	34.5%	0.0%	
	3	①	63.1%	/	33.8%	3.1%
		②③	64.4%	/	35.4%	0.2%
	4	23.6%	2.8%	60.0%	13.5%	
2	1	50.4%	/	49.3%	0.2%	
	2	36.5%	0.7%	57.6%	5.2%	
	3	50.7%	/	48.7%	0.7%	
	4	①	60.0%	/	33.0%	7.0%
		②	78.3%	/	18.9%	2.9%
③		84.1%	/	11.4%	4.6%	
3	1	水槽A	7.4%	/	82.8%	9.8%
		水槽B	9.2%	/	79.5%	11.4%
	2	[実験1]	78.4%	/	21.0%	0.7%
		[実験2]	43.0%	/	55.5%	1.5%
	3	11.6%	24.2%	49.8%	14.4%	
4	51.5%	/	47.8%	0.7%		
4	1	27.3%	44.3%	25.8%	2.6%	
	2	53.9%	/	45.2%	0.9%	
	3	56.6%	0.0%	34.9%	8.5%	
	4	34.7%	/	63.8%	1.5%	
	5	7.9%	2.4%	57.0%	32.8%	

問	題	正答率		誤答率	無答率		
		正答	部分点				
5	1	51.3%	/	43.9%	4.8%		
	2	33.6%	9.6%	49.3%	7.4%		
	3	①②	52.0%	/	48.0%	0.0%	
		③	81.0%	/	17.5%	1.5%	
4	45.0%	26.9%	26.4%	1.7%			
6	1	(1)	47.6%	/	52.2%	0.2%	
		(2)	50.7%	/	49.3%	0.0%	
		(3)	43.9%	1.3%	42.6%	12.2%	
	2	(1)	49.6%	/	50.2%	0.2%	
		(2)	①	70.1%	/	27.7%	2.2%
			②	80.8%	/	16.4%	2.8%
(3)	11.8%	19.0%	66.4%	2.8%			
7	1	16.4%	1.3%	79.3%	3.1%		
	2	①	48.5%	0.0%	46.3%	5.2%	
		②	51.7%	0.0%	42.1%	6.1%	
	3	35.6%	/	51.1%	13.3%		
4	1.5%	/	38.2%	60.3%			
8	1	76.4%	/	19.0%	4.6%		
	2	35.8%	/	53.5%	10.7%		
	3	9.8%	0.0%	58.5%	31.7%		
	4	5.0%	/	50.9%	44.1%		
	5	52.6%	1.5%	28.6%	17.2%		

【英語】

問題	正答率	誤答率	無答率		
1	1	96.3%	3.7%	0.0%	
	2	84.5%	15.5%	0.0%	
	3	73.8%	26.2%	0.0%	
	4	72.9%	27.1%	0.0%	
	5	50.9%	48.9%	0.2%	
2	1	84.3%	15.7%	0.0%	
	2	57.9%	42.1%	0.0%	
	3	76.6%	23.1%	0.2%	
3	A	3点	62.4%	/	/
		2点	18.6%		
		1点	2.6%		
		0点	16.4%		
		0点のうち無答の者の割合→			
	B	3点	21.8%	/	/
		2点	0.0%		
		1点	0.9%		
		0点	77.3%		
	0点のうち無答の者の割合→		3.5%		
	C	3点	34.9%	/	/
		2点	7.4%		
		0点	57.6%		
	0点のうち無答の者の割合→		16.2%		
	D	3点	75.5%	/	/
		2点	1.3%		
0点		23.1%			
0点のうち無答の者の割合→		4.4%			
4	1	①	44.8%	55.2%	0.0%
		②	32.8%	66.4%	0.9%
		③	13.5%	84.7%	1.7%
	2	3点	18.4%	/	/
		2点	16.6%		
		1点	9.0%		
		0点	56.0%		
		0点のうち無答の者の割合→			
	3	①	79.5%	20.3%	0.2%
		②	55.0%	44.5%	0.4%
		③	88.4%	10.7%	0.9%
	4	A	73.8%	22.7%	3.5%
		B	25.5%	63.5%	10.9%
		C	24.9%	65.7%	9.4%
	5	3点	21.0%	/	/
		2点	22.1%		
		1点	13.1%		
		0点	43.9%		
		0点のうち無答の者の割合→			
	6	3点	9.8%	/	/
		2点	14.6%		
1点		27.7%			
0点		47.8%			
0点のうち無答の者の割合→		8.7%			
7	①	30.8%	56.3%	12.9%	
	②	15.5%	63.8%	20.7%	
	③	61.6%	26.2%	12.2%	

問題	正答率	誤答率	無答率		
1	①	81.0%	19.0%	0.0%	
	②	47.8%	50.4%	1.7%	
2	4点	18.8%	/	/	
	2点	40.4%			
	0点	40.8%			
	2点, 0点のうち, 無答が				
	ひとつの者の割合→				2.8%
ふたつの者の割合→		3.5%			
3	8.4%	83.5%	8.0%		
4	32.3%	62.7%	5.0%		
5	A	10.9%	80.3%	8.7%	
	B	14.4%	56.1%	29.5%	
	C	29.0%	41.9%	29.0%	
	D	24.5%	40.2%	35.4%	
5	10点	11.4%	/	/	
	9点	5.0%			
	8点	8.3%			
	7点	5.0%			
	6点	7.6%			
	5点	4.4%			
	4点	5.5%			
	3点	4.6%			
	2点	7.4%			
	1点	3.7%			
	0点	37.1%			
	解答の正誤にかかわらず				
	6文以上書いた者の割合→				9.4%
	5文書いた者の割合→				40.2%
4文書いた者の割合→		7.0%			
3文書いた者の割合→		8.5%			
2文書いた者の割合→		7.6%			
1文書いた者の割合→		9.6%			
無答の者の割合→		17.7%			

